



「すてきな言葉」「やさしい言葉」のシャワーを浴びて

東日本大震災の後、テレビから流れていたACジャパンの広報を思い出される方もいらっしゃるかもしれませんが、下の詩は、金子みすゞさんの『こだまでしょうか』という作品です。

「遊ぼう」というと
「遊ぼう」という。
「馬鹿」というと
「馬鹿」という。
「もう遊ばない」というと
「遊ばない」という。



そうして、あとで
さみしくなって、
「ごめんね」というと
「ごめんね」という。
こだまでしょうか、
いいえ、誰でも。

やさしく話しかければ、やさしく相手も答えてくれるように、「人は接し方によって、相手も態度を変える。だから、誰にでもやさしく接するようにしたい。」という思いが読み取れます。言い換えれば、何気ない一言で人は傷つきもするし、笑顔にもなれる。「言葉は、人から人へこだまする」ものなので、やさしい気持ちで対話できることが人と人との関係では大事である、とメッセージを送っているようでもあります。

一方、専門家の解釈は少し違うようです。この詩について、「相手の言葉を繰り返すことで、相手の気持ちに寄り添うことができる。それはこだまだけではなく、誰でもできることなんだ。」と語っています。

どちらが正しいかということではなく、相手を思い、相手に寄り添う、そうした心の持ちようや伝え方を、私なりに解釈をしています。

言葉は言霊（ことだま）。言葉はこだま。言霊とは、「発した言葉に宿る摩訶不思議な力」のことで、『万葉集』にも「言霊の幸ふ国（言葉の霊力が幸福をもたらす国）」という表現があるように、昔は多くの人々が意識していた言葉の力なのです。私たちは、毎日のように新鮮な言葉のシャワーを浴び、パワーにしているのではないのでしょうか。その中で、これまで気づかなかったことに気づいたり、関心がなかった事柄が身近に感じられたりすることがあります。つまり、言葉を知ること、大切に使うことは、考え方や関わり方の変容につながり、ひいては自分に戻ってくるものではないのでしょうか。

ですから、「すてきな言葉」「やさしい言葉」のシャワーが降り注ぐ市川小学校になることを願っています。「ふわふわ言葉とチクチク言葉」「ほめ言葉のシャワー」について道徳等で考えている学級も見かけました。発達段階に応じて、言葉について客観的に考えてみてほしいと思います。

東京オリンピック・パラリンピックの全日程が終了して、あっという間に二月近くが経ちます。振り返ってみると、これまでのスポーツ競技では見られなかった光景に出会えた気がするのです。

例えば、今回新たに加わった競技のスケートボード。「うまくいかなかったことより、チャレンジしたことがすごい」と称えあう考え方や国家という枠を超えて互いにリスペクトする柔軟さに惹きつけられました。「誰かが作ったランキングに意味はあるのか？」と投げます。単に「若いから」と片付けてしまえない気がします。

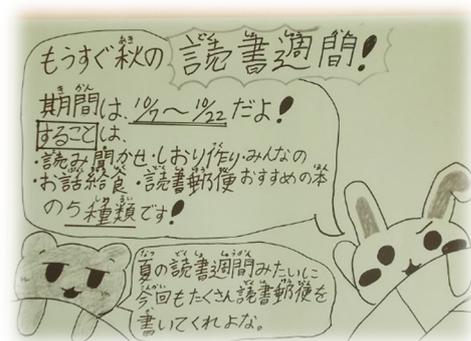
また、スポーツライミングでは、目の前の壁をどうクリアするかという課題を、個人で考えるだけではなく異なる国の選手と一緒に、まるで答え合わせでもするように相談する姿にも新鮮さを感じました。

似たような場面はこれまでもあったのかもしれませんが、もしかすると、日本で開催されたからこそ見えてきたのかもしれませんが、こうした精神を学校教育でもよい方に広められないか改めて考えます。

秋の読書週間（10/7～10/22）の取り組み

図書委員会による活動を中心にして、読書への関心を持たせ、意欲的・自主的に読書活動を進められるようにすることを目標にしています。具体的には、次のような活動を行っています。

- (1) 読書週間ポスター掲示
- (2) しおりづくり：切つてある用紙を使って自宅等でしおりを作成し、図書室でラミネートする。
- (3) 人気の本ランキング：アンケートでどんな本やシリーズが人気かランキングを作成する。
- (4) 読み聞かせ：図書委員が読み聞かせする様子を録画し、各教室で視聴する。
- (5) 読書郵便：郵便はがきを模したカードにお薦めの本について絵や文で紹介し、友達に送る。
- (6) 先生方のおすすめの本紹介
- (7) おはなし給食：HP「給食室から」の13日献立欄に記載がある。



新型コロナウイルス感染拡大防止策は継続します

毎日報告される感染者数が激減しています。少しホッとするところではありますが、油断は禁物です。遠くない時期に第6波がやってくるだろうと言われていていますし、冬場に向けてインフルエンザの流行も心配されます。学校では、これまでの対策を引き続き行い、子供たちの健康・安全を守ってまいりますのでご協力ください。

なお、校外学習は実施の効果を考えた上で、対策を十分にとってできるだけ実施したいと考えます。

- (1) 児童と教職員の日常的な検温をする
- (2) マスクの着用・うがい・手洗い・換気などを徹底する
 - * マスク着用の効果や着用の際の留意点などを児童自身が理解できるよう、家庭と学校の双方で指導をします。マスクの意味を果たしていないようなものを見かける時があります。
 - * マスク着用は、児童個々に事情を抱える場合もあるため、必要な配慮がありましたらお知らせください。
- (3) 3密を回避した環境づくりや活動を心がける
- (4) 児童や教職員が体調不良を訴える場合は、登校や出勤を控える
 - * **前夜に発熱し、朝は平熱に戻った場合や同居する家族が体調不良の場合も同様です。**



10月8日（金）に4年生が千葉県の学習を兼ねて、鴨川シーワールドに校外学習に出かけました。途中、房総丘陵を斜めに横断しながら、地形の様子も車窓から確認できました。今日は3年生の市内見学です。

今月は、このあと2年、6年、1年の順で出かけます。感染症対策もきちんとして…。

学年教材費に関する前期会計報告は、10月25日（月）～29日（金）の週に、学年毎に期日を決めて配付します。